

「洗礼者ヨハネの誕生」

2015年04月10日

ルカによる福音書 1章57節～66節。さて、月が満ちて、エリサベトは男の子を産んだ。近所の人々や親類は、主がエリサベトを大いに慈しまれたと聞いて喜び合った。八日目に、その子に割礼を施すために来た人々は、父の名を取ってザカリアと名付けようとした。ところが、母は、「いいえ、名はヨハネとしなければなりません」と言った。しかし人々は、「あなたの親類には、そういう名の付いた人はだれもいない」と言い、父親に、「この子に何と名を付けたいか」と手振りで尋ねた。父親は字を書く板を出させて、「この子の名はヨハネ」と書いたので、人々は皆驚いた。すると、たちまちザカリアは口が開き、舌がほどけ、神を賛美し始めた。近所の人々は皆恐れを感じた。そして、このことすべてが、ユダヤの山里中で話題になった。聞いた人々は皆これを心に留め、「いったい、この子はどんな人になるのだろうか」と言った。この子には主の力が及んでいたのである。

エルサレム神殿の祭司ザカリアと妻エリサベトは主の前に正しい夫婦であったが、子どもが与えられていなかった。ザカリアは神殿で香をたく当番に当たり、香をたいていると天使ガブリエルが現われ、ヨハネの誕生を告げる。老夫婦の自分たちに子どもが産まれるなど信じられないザカリアは、口を利けなくされた。しかし、天使の告知通り、妻エリサベトは身ごもり、彼女は「主は今こそ、わたしに目を留め、人々の間からわたしの恥を取り去ってくださいました」と喜ぶ。

そして月が満ち、エリサベトは天使の告知通り、男の子を産んだ。近所の人々や親戚はエリサベトの出産を神の慈しみとして、老夫婦に与えられた大きな祝福を喜び合った。

8日目に、神の民の証である割礼を施すために集まった。この日に命名する。人々は、父の名を取り「ザカリア」にしようとする。信仰の篤いザカリアは人々から信頼されていた。父の祭司職を受け継ぐべき者であるから、父の名を継ぐことは当然と考えたからである。ところが、エリサベトは「いいえ、名はヨハネとしなければなりません」と言った。彼女は「ヨハネ」という名を聞いていない。口のきけないザカリアから、文字で知らされていたのであろうか。名はヨハネにすると言い張った。人々は、親戚にはそういう名の人はいないではないかと言い、父ザカリアに聞こうと手振りで「この子に何と名を付けたいか」と尋ねた。彼は書き板を持ってこさせ、それに「この子の名はヨハネ」と書いた。すると、たちまちザカリアの口が開き、舌がほどけた。その口から神を賛美する言葉が発せられた。天使のヨハネ誕生の告知が実現したことを知った彼は「不信」から「信」に変えられた。「信」を得て、発せられた最初の言葉として記したものが「ザカリアの預言」である。ルカは、言葉は神賛美から始まると言う。

近所の人々はヨハネ誕生に恐れを感じた。父ザカリアは神殿から出てきた時、言葉を失っていた。老夫婦に思わぬ出産の恵みが与えられた。割礼を受け、命名する時、夫婦は共に、親類にはない「ヨハネ」にするとした。その時、ザカリアに言葉が戻った。不思議なことが続いたヨハネの誕生は、人々の心に深く刻まれた。彼らは「いったい、この子はどんな人になるのだろうか」と、恐れと期待を持って言い合った。ヨハネは生まれる前から、神の力に包まれていた。

このヨハネが、主イエスの歩まれる道備えをし、人々に主イエスを指差す旧約時代の最後の預言者として、神に用いられたのである。